



大阪科学・大学記者クラブ 御中

2019年8月20日
大阪市立大学

研究活動のご紹介

経営学研究科

大阪市立大学×グリフィス大学（豪州） 成熟産業のイノベーションの国際比較調査

大阪市立大学大学院経営学研究科 山田 仁一郎教授がオーストラリア連邦クィーンズランド州にある国立グリフィス大学のガレス・トマス講師、エヴァン・ダグラス教授とともに国際共同研究チームを結成し、ハイテク産業だけでなく成熟産業の分野においても、イノベーションがビジネスの成功とどのようにつながっているのか調査を開始しました。

<概要>

この学術研究調査は、「破壊的技術革新¹」の影響を強く受けている成熟した業界を調査対象として選び、両国において、創造的で革新的な起業家たちが、彼らの会社を再発明し、デジタル・トランスフォーメーションの変革の中でどのように深刻な課題を克服し、戦略的に新しい方向に向かっているかを明らかにするものです。

印刷産業は、テクノロジーを基盤に長い歴史を経て人類の歴史とともに持続してきました。中国の木版印刷や欧州の活版印刷など重要な転換点を経て、現在、社会とビジネスのデジタル化の中で包装やデジタルサイネージなどを含め、地球上のどの国でも存在する成熟産業であり、同時多発的かつ急速に変質する現象を起こしている点で、重要でユニークな研究対象といえます。

この研究は、オーストラリアの印刷産業協会（約 450 社）、大阪の印刷協会（約 650 社）、全日本印刷工業組合連合会（約 1,300 社）、公益社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）と協力して、日本学術振興会（科学研究助成事業）の支援を得て、厳しい市場環境にもかかわらず起業家がどのように革新しているのかを調査します。

<計画>

オンライン・アンケート調査：2019年8月12日（月）～10月16日（水）の間、下記のサイトで、印刷ビジネスのアントレプレナーを対象に、日本語と英語で、日本とオセアニアで同時にオンライン学術調査を行います。アンケートは50項目ほどにわたって、企業の経営戦略、研究開発や事業開発の志向、企業統治の状態などについて調べる構成です。成熟産業における企業のイノベーション志向性の論理について、明らかにするものです。

この研究プロジェクトの詳細については、プロジェクトのウェブサイトである「inprint.space」をご覧ください。

このチームは、日本の印刷業界の振興を担当する政府機関である公益社団法人印刷技術協会（JAGAT：Japan Association of Graphic Arts Technology）が大きな関心を寄せており、2020年2月に、東京で開催された組織の全国大会 page2020（印刷メディアビジネスの総合イベント）で、山田教授とトマス講師の研究調査の結果を発表する予定です。

ぜひ、ご取材をご検討いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

¹ 破壊的技術（disruptive technology）とは、業界の従来の価値基準のもとではむしろ性能を低下させるが、新しい価値基準のもとでは従来の既存製品よりも優れた特性や意味を持つ代替的な新技術のことである。

<研究者からのコメント>



この研究は、変革時代におかれた印刷業界の起業家にとって、国際協力と学習の契機を探求する機会ととらえています。日本とオーストラリアは、非常に異なる経済や文化、制度をもっています。その一方で2つの国を比較することで、同じように経営環境の変化の脅威の中で、いかに中小企業が共通するイノベーションの論理によって、事業の転換（ピボット）をすることが可能かどうか明らかにできると考えており、国際共同研究プロジェクトの意義だといえます。

<経営学研究科・山田教授について>

山田仁一郎教授の専門はアントレプレナーシップ論、経営戦略論、組織論、ガバナンス論。著書には単著に『大学発ベンチャーの組織化と出口戦略』（2015、中央経済社）、主な共著には『アントレプレナーシップ入門』（2013、有斐閣）等がある。日本ベンチャー学会理事、組織学会評議員。中小企業振興審議会、経済産業省・中小企業診断協会、文部科学省科学技術学術政策研究所(NISTEP)、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）実証事業・有識者委員会、国立研究開発法人産業技術総合研究所（AIST）、特許庁委員会などを歴任。英国、フランス、台湾、韓国での研究・教育などに携わる経験を経て、現在、グリフィス大学客員教授として豪州在住。太陽ホールディングス株式会社・社外取締役も兼任する。

<グリフィス大学について>

グリフィス大学は、1971年に創立され、約40年間で多様な研究分野を展開し、世界大学ランキングの上位3%に位置します。また、オーストラリア連邦内で10位内と評価されている名門大学で、130,000人以上の卒業生が世界中の各分野で活躍しています。5万人を超える学生数、8,500人を超える留学生、130ヶ国以上の国籍のタレントが集まるグローバルな研究機関で、環境・ツーリズム・ビジネス分野で特に高い評価を受けています。

○ガレス・トマス講師

欧州・アジア・豪州のエレクトロニクス・電気機器メーカー大手において、資材調達から経営管理、営業・マーケティングまでを網羅した20年のキャリアを有する。日立ヨーロッパとキヤノン・オーストラリアでの社内起業家としての実務経験を生かし、現在は豪グリフィス大学ビジネススクールの大学院博士課程で学ぶ傍ら同講師としてイノベーション・経営戦略・アントレプレナーシップの講義を担当。英ロンドン大学経済学部卒業、大阪市立大学大学院（文部省国費外国人留学生）修士号（経済学）、豪グリフィス大学ビジネススクールでMBAを取得。

○エヴァン・ダグラス教授

豪グリフィス大学ビジネススクール教授（アントレプレナーシップ）。カナダで博士号取得後、豪州、米国、カナダ、英国、タイ、インド、中国、ベトナムの各国でアントレプレナーシップやニューベンチャー企業の経営企画を教える。研究領域は企業家志向性（EO）、イノベーション・マネジメント及び実践、リスクの認識と低減、ニュー・ベンチャーのバリュエーション、ファイナンス戦略等。国際学術誌掲載論文

は 40 本を超え、A ジャーナルのエディターを勤めるアントレプレナーシップ分野のリーダーの一人である。

来年、6 作目の著書「企業家志向性：過去・現在・将来の研究」を英エドワード・エルガー出版社から 2020 年 1 月に上梓予定。オーストラリア取締役協会（AICD）特別会員。

【本件に関するお問合せ先】

大阪市立大学経営学研究科 教授 山田仁一郎
yamada@bus.osaka-cu.ac.jp

グリフィス大学 講師 Gareth THOMAS
gareth.h.thomas@griffithuni.edu.au

【報道・取材に関するお問合せ先】

大阪市立大学大学管理部広報課 担当：西前
TEL：06-6605-3411
E-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp